

きらぼしセミナー便り きらぼしトップスクール編

きらぼしトップスクール

1年を通して経営者としてのスキル・マインド・パーソナリティを学びます。経営者、後継者、次世代候補の学びの場として2008年の開校以来116名の修了生を輩出。次回12期は2021年6月募集開始、9月開講予定。

さる11月26日(火)、第5回となるトップスクール同窓会を如水会館にて開催いたしました。現在第11期開講中のトップスクール、会場には10期までの修了生と在校生合わせて50名を超える皆様にお集まりいただきました。

第一部 記念講演 『～幸せのレシピ～愛情経営』

同 窓会は、株式会社ベアーズ副社長・東京きらぼしフィナンシャルグループ社外取締役の高橋ゆき氏による記念講演会でスタートしました。

高橋氏が家事代行サービスのベアーズを創業するきっかけは、夫婦で香港の現地法人に勤めだして間もない頃に第一子を授かったことに遡ります。子供がいては仕事を続けられないのではと悩む高橋氏に、香港では国の風習として、若い夫婦でもメイドサービスを当たり前のように使っていると聞かされたそう。高橋夫妻も縁あって素晴らしいフィリピン出身のメイド・スーザンとの出会いがあり、仕事を続けられたばかりか、時間にも気持ちにも余裕が出て家族を大切にできるような国してみると日



ご講演いただいた高橋ゆき氏

方も多く、数年後80代のベアーズレディもさらに増えるであろうとのこと。家事代行の最高品質プランを担当するベアーズレディとして活躍し、正社員とチャダンスのダブルキャリアで働いているチャダンス部が全国大

本ではまだそのようなサービスがほとんどなく、家事代行の産業を創るという夫婦で事業を立ち上げることとなったのです。創業以降もさまざまなサービスを立ち上げる際には「自分が必要としていることはほかの人も必要はず」と自分や周囲のニーズを起点にしていることが多く、経営者は常にアンテナを高くしておくべきと話されていました。

高 橋氏は創業以来「従業員も幸せを感じられる会社になる」ことに心血を注いできたといえます。現在、200名ほどいる正社員には、運動会などのイベントや決起大会などの表彰制度を設け、ダイレクトコミュニケーションを大事にし、5200人ほどいる「ベアーズレディ」と呼ばれる家事代行スタッフにも、納涼会や社長、副社長はじめ社員がベアーズレディへ日頃の感謝を伝える愛と感謝の祭典など、楽しく働ける仕組みづくりをしている。現在80代のベアーズレディも数多いが、60代・70代でいきいき働く現役の方

会に出場した際、なんとお客様が応援に駆けつけてくれたというエピソードを紹介し、魂が喜ぶ志事(しごと)をするよう従業員に何度も言ってきたことがお客様に伝わった結果なのではないかとおっしゃっていました。

講

演を通じて高橋氏が常に強調していたのは、「経営者は想い(LOVE)」を持つということです。ベアーズは家事代行を通じ、「新しい暮らしの提案」そして、「新しい雇用の創造」で社会に貢献できるという強い想いから生まれています。前者は自分以外でもできることはアウトソースし、母親も誇りをもって働きながら家族を大切に



熱心に講演を聴かれるトップスクールの皆さま

トップスクール修了生・在校生、
歴代校長、さらばしグループ役
職員、出席者全員の記念写真



- 1 現校長(第11期)の大山雅己氏
- 2 トップスクール生みの親、初代校長の畠中初氏
- 3 第10期校長の藤田隆久氏
- 4 昨年8月に修了された第10期の皆さま
- 5 兄(第9期・左)、弟(第10期・右)で受講された横山兄弟
- 6 今でも仲の良い第4期の皆さま
- 7 現役生である第11期の皆さま



第二部 懇親会

できる暮らし。後者は、これまでの家事や育児の経験をいかしながらプロの家事代行スタッフとして働く雇用の創出。経営者であれば、会社の事業がどう社会に貢献できるのか語れるようになってほしいと訴えました。

懇

親会は、トップスクールの生みの親・初代校長 畠中初氏によるスピーチからスタート。その後は各期ごとにグループで壇上に上がり、メンバー紹

介やトップスクールへの思いなどを語っていただきました。初めて会う方が多い中、「トップスクールはもっと縦横ナナメの交流を」と熱く語る方がいると、「ナナメって何ですか?」と返しが来るなど、笑いも交えた和やかな雰囲気。歓談タイムの後、集合写真をパチリ。トップスクールはもっと団結してこう!と締めくくりました。

今

回の同窓会では初めての試みとして同窓会名簿を作成いたしました。その甲斐あってか、歓談タイムでは期をまたいだ名刺交換などの交流

も盛んにおこなわれ、後日いただいたアンケートでは、時間が足りなかったというお声やビジネスマッチングが進んでいますといったうれしいお声も頂戴しました。忙しい業務の合間を縫ってご参加いただいたトップスクール同窓生の皆様にはこの場を借りてあらためて感謝を申し上げます。私ども事務局にとっても、今後も皆様の思いに込め、トップスクール同窓生であることを誇りに思い喜んでもらえる会にしたいと心新たに同窓会となりました。

(文・会員サービス部)